

教育等に関するアンケート（教育長・公立学校長）集計結果

（平成 29 年度アンケート実施）

1. アンケートの概要	・・・・・・・・	1
(1) 目的		
(2) 対象者		
(3) 実施時期		
(4) アンケート内容		
2. アンケートの結果	・・・・・・・・	2
(1) 鳴門教育大学の学部を卒業した教員の全体的な印象		
(2) 鳴門教育大学の大学院を修了した教員の全体的な印象		
(3) 今後の教員の在り方を見据え、鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力		
(4) 鳴門教育大学卒業生及び修了生の教員離職の把握状況		
(5) 鳴門教育大学の教育内容について、良いと思われること、改善すべき点又は要望		

1. アンケートの概要

(1) 目的

本学の教育の状況について、デマンド・サイドの意見を把握することにより、教育の質の維持・向上及び教育研究体制の一層の充実を図ることを目的とする。

特に、本アンケート結果は、在学生にとって、卒業・修了後に教職に就く（現職教員である大学院生にとっては、復職する）際に、学校現場からどのようなことを求められているかを知ることができ、修学への強い動機付けとなることを期待する。

(2) 対象者

徳島県内の教育委員会教育長，徳島県内公立幼・小・中・高・特別支援学校長：対象者 435 人，回答者 321 人（回収率 73.7%）

(3) 実施時期

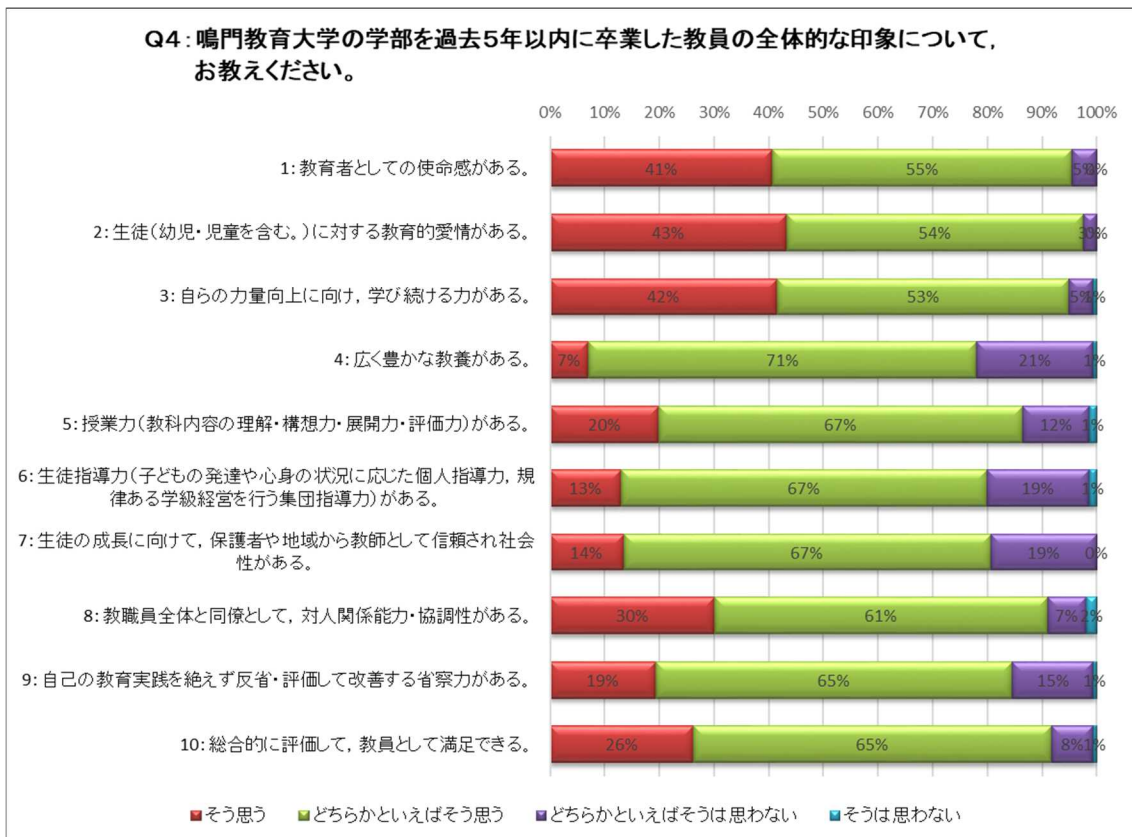
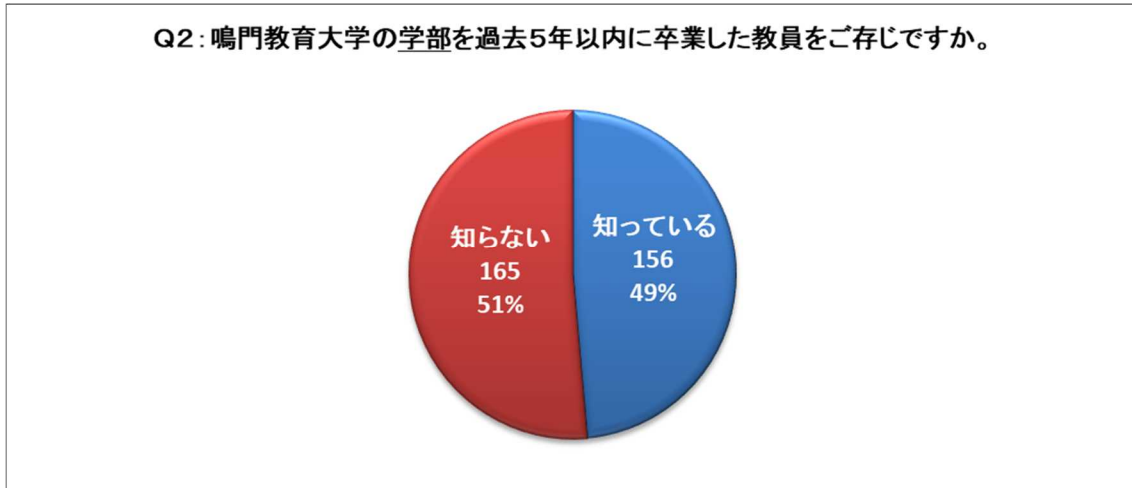
平成 29 年 10 月に、各教育長・学校長あてにアンケート調査を依頼した。回答方法は WEB 又は紙媒体とした。

(4) アンケート内容

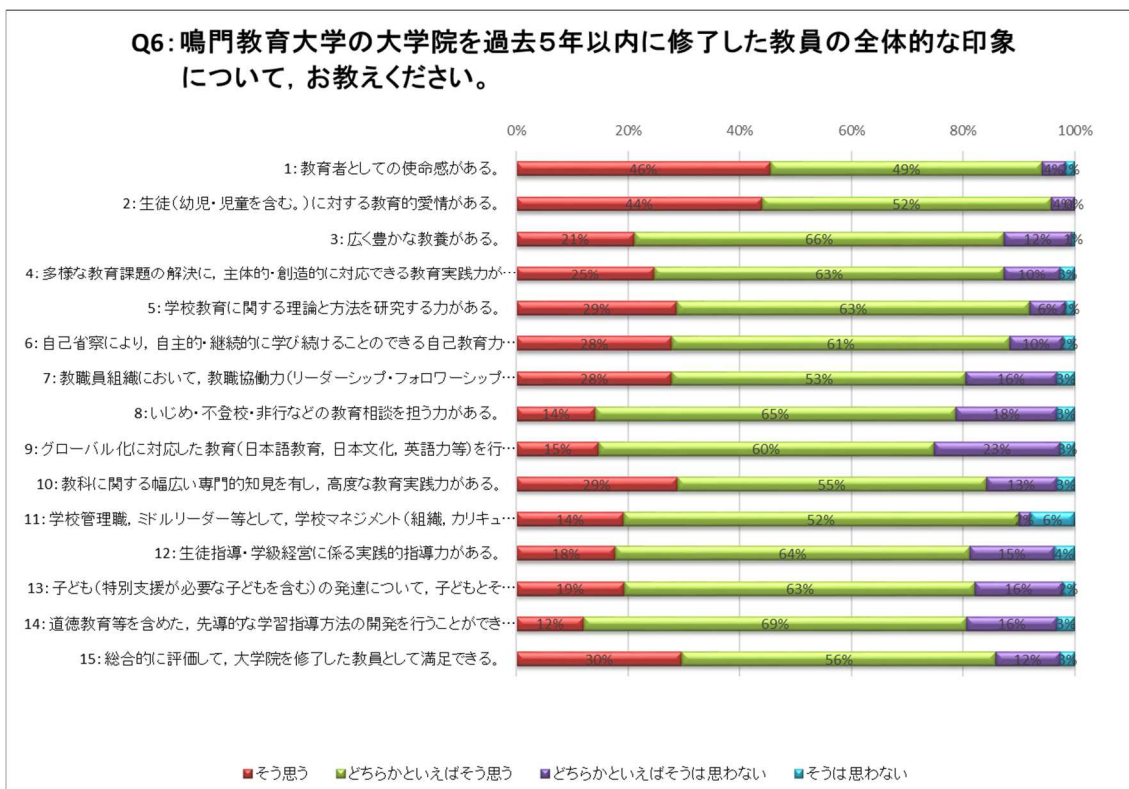
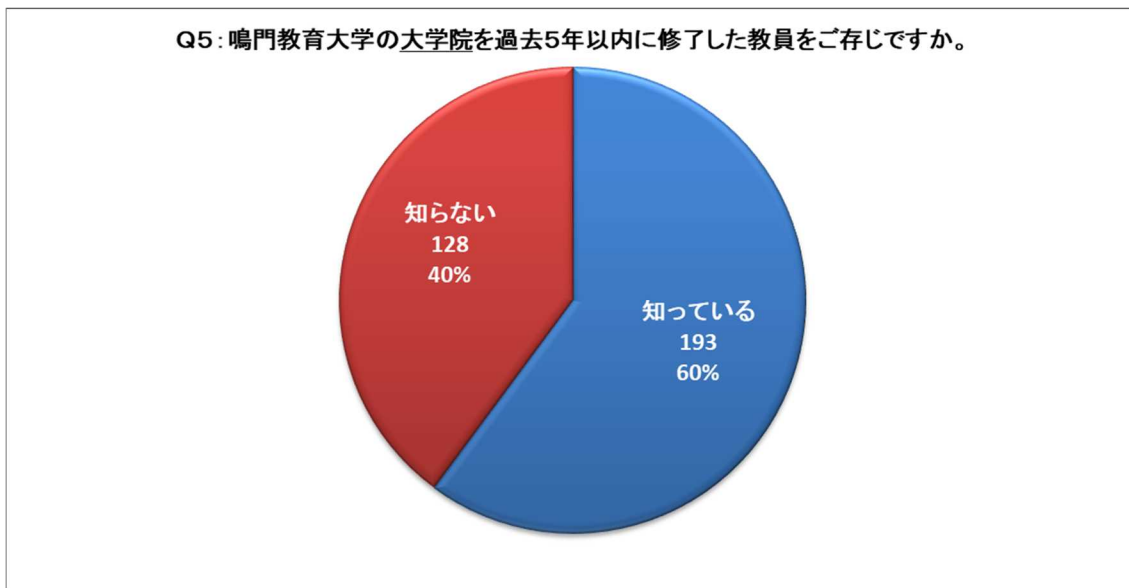
- ①本学の学部を卒業した教員の全体的な印象について、4 件法で回答を求めた。
- ②本学の大学院を修了した教員の全体的な印象について、4 件法で回答を求めた。
- ③本学で伸ばして欲しい能力について、責任感，コミュニケーション能力，専門領域における知識，教育課題を発見する力など 24 項目を設定し、3 件法で回答を求めた。
- ④本学の卒業生及び修了生の教員離職の把握状況について、2 件法で回答を求めた。
- ⑤本学の教育について、自由記述で回答を求めた。

2. アンケートの結果

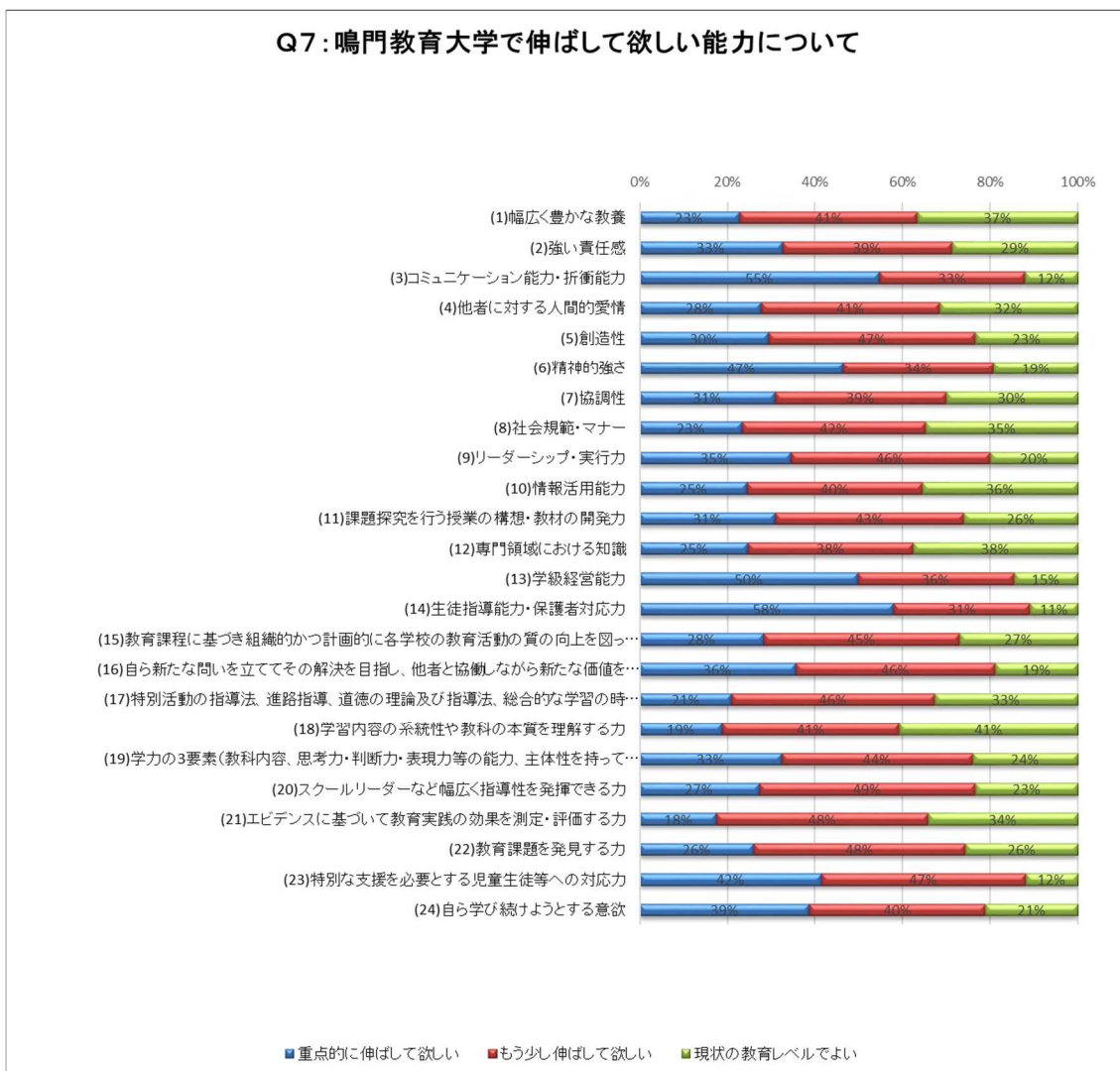
(1) 鳴門教育大学の学部を卒業した教員の全体的な印象



(2) 鳴門教育大学の大学院を修了した教員の全体的な印象

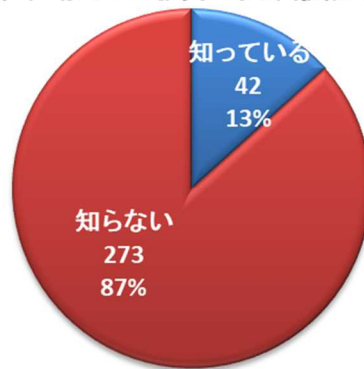


(3) 今後の教員の在り方を見据え、鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力



(4) 鳴門教育大学卒業生及び修了生の教員離職の把握状況

Q8: 鳴門教育大学を卒業・修了した教員のうち、離職した教員をご存じですか。



(5) 鳴門教育大学の教育内容について、良いと思われること、改善すべき点又は要望

Q9：良いと思われること

- 真面目で律儀、子どもたちが好きな人が学生・院生として集まっていると感じています。
- 「地域連携」について、鳴門教育大学大学院の先生方は率先垂範して行動されており、高く評価すると共に感謝しています。本町も予防教育、学力向上、ユネスコスクール、臨床心理コース院生による不登校生徒支援、等々、多々街支援いただいて参りました。これは単なる連携の域を超えての実践だと認識しております。
- 日常生活を通して、興味・関心を持たせる事柄を教科・科目において取り入れた授業の追求を生徒達に教えて下さったこと。
- 特に教職大学院で、研究をする先生との接点が多かったが、意欲とともに、大学院の先生や、共に学ぶ方からの指導や刺激が、いい効果をもたらしていることを感じた。
- くわしくは分からないが、鳴教大出身の教員は総じて優秀（特に若い人）だと感じる。質の高い教育が行われている証拠である。
- 徳島に学び徳島で教師をしてくれる方の育成を願いたい。多忙な学校生活に於いて他県の教員の指導、育成までできにくい場合が多い。教えることが徳島の教師の向上にもつながる生徒に向き合う時間が少なくなるのはつらい。
- 教育実践力を身につける体系的なプログラム
- きめ細かい教員採用試験対応
- きめ細かい教育指導
- 学校現場のニーズと連携交流
- 大学院は、現職教員が課題を持ち、研究できる素晴らしい環境を提供してくれている。また、一旦、学校現場から離れ、外から「学校」をみることで、多様な考えを知ることができる点も評価できる。
- 現場ではできない専門的な指導内容が詳しく学べるのがいいと思う。
- 現場で実践的に活用できる教材が開発できる。
- 現場を離れて研修、研究に専念できること。自己の教育観等を明らかにできる。
- 大学執行部と教員が同一方向を目指し、有為な教員を大学をあげて育成されていると感じています。
- 他府県の先生や、校種の違う先生と交流ができるところがすばらしい。
- 教育現場をはなれて、自由な時間がもてるところがよい。
- 専門的な知識が学べる。
- 人脈が広がる。
- 地元の学校、教育委員会と協力して、研究や指導に取り組んでいる。
- いちはやく、文部科学省の答申等に基づいた考えを具現化し、次代を担う児童生徒に必要なプロジェクトを立て、実行しているところ。
- 学生一人一人を大切に考え、育てているところ。

- 教職員の皆さんが、専門性は、さることながら、人間的にも幅広く、温かな方が多いところ。
- 詳しい内容について知識が十分でないですが、現状の教育内容で、優秀な教員となる素地は十分だと思います。あとは本人次第だと思います。
- 地元にある教員養成大学としての役割は非常に大きいものとする。
- 現場の教員が大学院でより高い資質を身に付けるという点でその一翼を担っていると思われる。
- 地域にある大学としてよく貢献されていると思う。
- 少人数で専門的に勉強ができてより深いことを学べている。
- 地域フィールドワーク実習
- 教職員としての基礎的基本的な力を身に付けて、卒業しておいでるので、現場に勤務されても、きびきびと、またてきぱきと、児童や保護者に接している教職員が多いように思う。
- 教職に就くことを目標に教育しているので、専門教科の知識だけでなく、教育関係の専門性も持っている。
- 地域の教育を担うという意味で現場へ貢献しようとしている。
- 現役で採用試験に合格している人が増えてきている。面接練習をさせてもらっても、質問に対して、具体的に建設的に答えられている。採用後も熱意と愛情を持って教育に取り組んでいる。
- 現場退職者（元校長）が指導員として活躍しており、現状にあった今必要とされている教員養成につながっていると感じている。
- 大学・大学院でこそ学ぶことができる専門的知識やスキルを身につけることができる。
- 教育的・社会的な視野をひろげることができる。
- 専門を深められるところ。
- 異校種間の情報共有ができる。
- 幅広い分野で活躍されている。
- 温かみのある人柄の方や、ユーモア溢れる方が多いように見うけられます。
- 細かな自己分析によって客観的に課題をとらえる指導をされていると思いました。
- 日本一の教員養成大学であると思う。今後も地元の大学として応援していきたい。
- 教職大学院は、現場の教員に促した力を伸ばす教育を実践していただいている点は、ありがたいと日々感じています。
- あまり詳しいことを知らないのでコメントすることが思い浮かびません。PR のためのパンフレットなどを同封していただければ助かります。どうぞよろしくお願いいたします。
- 幅広く多方面に活躍できる人が多く、助かります。前向きな人も多かったです。（現在も働いている人は）
- 現場との連携を積極的に行っているところ。
- 実践的な研究を行い現場に返しているところ。
- 即戦力の優秀な教員を育成しているところ。

- 教員を志望しており、教育に対して専門性や指導技術をしっかり身につけられる大学である。採用試験対策が盤石で、採用率が高い。学生への細やかな指導が行き届いている。現場のニーズや将来必要とされる資質に応じた指導がなされている。
- 現場を離れて、新しい視点で教育を見直すことができること。
- 教育最先端の情報に触れることができ、そのことを現場の教育に生かすことができること。
- 私自身も現職のとき大学院で学ばせていただき自分自身の教育のあり方を振り返ったり、論理的に見直したりするよい機会となりました。その時代に先進的な他県の実践に触れられたのがとても良い勉強になりました。また、授業を見に行ったら、院生や現役の方と協議し合ったこともよかったです。
- 先ごろ、貴大学院の教育実習生の受入れをしましたが、即学校現場で活躍できそうな人材でありました。ご指導のたまものと感心いたしました。今後もすばらしい人づくりを進めてほしいと願っております。
- 鳴門教育大学を卒業して教員になった方には、温厚・真面目で協調性も申し分なく、児童・生徒と真摯に向き合っている人が多いと感じています。
- 学校教員養成長期プログラムを受けている学生の質について、責任感、意欲、実践力等は教育実習が充実していると思います。私共も実習生の受け入れを検討してもいいと思っています。
- 大学：戦力となる人材を育成している。大学院：新たな学びの発見の場となっている。
- 「ふれあいアクティビティー」や学校ボランティアを通して、直接子どもと接し、学ぶ機会を設けている点は良い。
- 一人一人を大切にきめ細かい教育をして下さるところ。
- 真摯に教育に対して向き合い、大学が持っている研究成果を地域の教育力向上のために役立てていただいていると思います。多くの面で支援をされていると感じています。
- 幅広い知識を持った教員が育成されている。
- 教職大学院の学生が2年目に所属校において自らの課題・学校の課題を克服していくために、実践研究を進めていくことは、有意義な取組と考える。
- 地域フィールドワークとして、異種校の学校での勤務状況を学ぶ取組は本人の今後の教育・指導に役立つものと思う。
- 非常に真面目で素直である。一生懸命仕事に取り組む。熱心に教材研究をする。このような人材を育てている。
- 現職が学べる場所を提供してくれている。共に学ぶという開放的なところが良い。
- 学校（現場）を支援してくれている所で教授等の先生方が動いてくれる。とりわけ学校経営や学力向上においては成果を発揮しているように思います。
- 一言で言えば、総合力の高い教員を養成している点。学校現場においても安心して仕事をまかせられる教員が多い。
- これらも教育人財の育成をよろしく願います。
- 鳴教大からの教育実習生は全般的にしっかりした学生が多く感心しています。殆ど

の学生は礼儀正しく専門分野における知識も豊富で、中には即戦力として現場で勤務できる学生もいます。ここ何年かで私が見（観）た学生は専門的な知識は勿論、人間的にも素晴らしいものがありました。やはり教育は人です。そのような点をまず第一に学生たち（すべての）に教えてあげて頂きたいと思います。

- 教育大生の方が他大学を卒業した者よりも、学校現場において即戦力となるくらいの学習を積んでくれているように感じる。
- 学部・学科の人数が少なく、少人数で教育が受けられる。
- 教授とのつながりが強く、深い学びができる。
- 実習が充実していて、現場から直接学べる機会が多い。
- まじめで責任感が強い教員が多いと思われます。地元の教育力向上のため、さらに力を発揮されることをのぞみます。
- 数年前まで附属小学校に勤務していました。たくさんの実習生を受け入れていましたが、基本的にたいへんまじめで子どもたちともうまくふれあうことができました。前向きにいろいろなことにチャレンジできていて素晴らしいと思いました。大学がいろいろな機会に子どもたちとふれ合わせてくれているので、やさしく思いやりのある学生が多いのだと思っています。
- よく勉強していて素直な教員が多い。（鳴教大出身者に限らず若い先生は）
- 我々の頃に比べて、ICT 機器等、よく勉強していて現場ですぐに役立っている。
- 生徒指導、保護者対応は理論通りにいかないことが多く、現場で学ぶ以外にないと思う。
- 地元に近い印象があります。地域をよく知っている地域を愛する人材がたくさん現場で活躍されている。これからもそうあり続けてほしいです。
- 採用に向けての指導について即戦力の力をつけていこうとしている。
- 徳島の教育と密着して研究を進めてくれている。県には1つ教育学部が必要です。
- 模擬授業や指導案づくりなど実践的な指導をされている。
- 多様なカリキュラムを組んで教育しているのが感じられる。
- 詳しい教育内容はわかりません・・・が、教院大学として、より優能な教員を育てている。大学が本県にあるという意義は大きいと思う。
- 責任感があり真摯な態度で教育に取り組む教員の育成がなされている。
- 前向きで積極的に取り組まれていると思います。大学の中で、しっかり協議したりお互い切磋琢磨をしながら実力をつけられているように思います。
- 小・中学校への連携・協力を積極的に実践してくれていると感じている。
- 地域性を大事にした教育をしている。
- 新しい教育も含め、教育現場で実践力のある教員を育成している。
- 教育に関する様々な資料を提供してくれている。
- 専門性を生かしたアドバイスがもらえる。
- 地域と密着している。
- 少人数教育、現役教員と学べるのが良い所。
- 義務教育の先生になるのには良い学校。

- 貴学の大学院（教職大学院を含む）では、より実践的な学びが多く現場で生かされる部分が多い。理論も必要だが、その学びが現場で生かされてこそ意味がある。その点で評価すべき点が多い。将来的には、教職院大学を拡充し、半年～1年程度の研修機会も必要ではないかと考える。いわば充電期間が大切で、それによってより教育への意欲や情熱が高まり、空回りしないであろうと思う。
- 特別支援学校では、教科書を使用しない授業も多く、先生の発想・創造力等が求められる。そのためには、様々な体験が必要です。また、自分の考えを押し通すのではなく、柔軟な考えができるような教員を育ててもらいたい。少々の困難や苦勞も超えられる忍耐力、我慢強さのある教員を育ててもらいたい。
- 大学での採用試験への取り組みはすばらしく、即戦力となっている方も多い。大学院は個人差が大きい。
- 教育の専門性について、深く学び能力は身に付けていると思います。
- 鳴門市内の小学校に勤務していた頃、学生ボランティアさんが、絵本の読み聞かせや、授業のサポートに入ってくれた個別指導をしてくださって助かりました。
- 謙虚さが足りない人材がいる。人格をもう少し磨いてほしい。ほとんどの人材は皆、ほんとうによくがんばっている。力量はまちがいない。
- 幼稚園教諭をめざしていない学生にも幼児教育を学ぶ機会がある。
- 校種を超えた学びの場がある。
- 教科や指導分野について高い専門性を有する教員を養成している。
- 責任感がありコンプライアンス意識が強い。向上心があり教材研究にも熱心に取り組むことができている。また、同僚と協力をして、職員のコミュニケーションを図る場を進んで設けることができている。
- 学級現場に多様な指示に来ていただけることが、現場の教員の資質向上につながっている。
- 特にありません。協力できることは協力したいと考えています。
- 読解力があり、知識が高いと思われる大学生が育っている。
- 各学生や院生が、理想の教師像を描き、それを目標として、教職に就くための努力を惜しまず、また、大学、大学院の先生が、実践的な教育を行うことによって彼らを支えていることをすばらしいと思います。
- 特別支援教育に限ると、1年次から附属特別支援に入っていること。（課題を持ちながら学習、研究に取り組むことができる）
- 身近に在籍、卒業生がいないので、あまり分からないが、教員養成大学の中では教員として仕事に就く割合が圧倒的に多いと聞く。従って、教員になるための実践的な演習が学べるのではないかと感じる。
- 教職員が前向きに取り組もうとする姿勢。
- 実習や体験学習の機会が多く、教育現場の課題、自らの教職へ適性、課題、目標等について考えることができる。
- 指導教員、先輩等の関係が採用後にもよい影響を与える。
- 教育大学・大学院の先生方の主に教育理論の専門性の高い方々である。しかし、教

育は理論と実践の往還と考えるならば貴大学の先生方において、教職経験が5年未満の方は、ぜひ現場にて5年程度の実践を積んでもらいたい。

- 使命感のある教員の養成に大変お世話になっております。
大学生について：教育技術（すぐ使える）の高い教師が多くなっている（即戦力の教師が増えていると感じる）。
大学院生について：学校の実態・課題に合わせた実践的な課題に取り組んでいる。
- 現在の教育課題について、学校現場と連携を持ちながら、理論に基づいた改善方法等を研究・実践しているところがすばらしいと感じています。
- 教育に関する刷新の情報が得られ、修得できる。
- 新たな能力開発，知識・技能の習得。
- 大学入学してから教育実践に向けた学習ができている附属所小中への研究会への参加など教員になるために計画的にカリキュラム化を図られている。現職教育（現場の教員）の講座があり，早期から意識づけができていてすばらしい。
- 自らの課題やキャリア形成目標に応じた研究テーマを明確にもって学んでいる方も多い。
- 本市にも鳴教大卒業生の教諭がおり，大変がんばっています。これからも多くのすばらしい先生がたが現場で活躍してくれることを願っています。
- 真面目で，熱心な方が多いと思います。
- 学部生と院生，教員との交流授業等とてもよい取組だと思われる。しっかり議論し，自ら考えて授業づくりや学級経営の改善に取り組んでいこうとしている。
- 合格率1位のきめ細やかな指導
- 学生・院生共に平均してまじめで，熱心な学生が多く，研究研修についても同様，よく取り組んでいる。教育実習にくると意欲的である者が多く，児童生徒のよき手本であろうと努めている。また，いろいろの手立てをし，信頼を得ようとする態度が伺える。
- 徳島の教育を担っていくという自覚を持っている。組織の中で役割を果たそうと努力し，自ら動こうとする意欲や情熱が感じられる。
- 大学院で学んだ教員は，とても専門的知識が豊富で授業の引き出し（発問，教材，授業展開，アイデアなど）をたくさん持っていて感心する。現場に復帰しても学ぶ意欲が旺盛で，他の教員にもいい刺激を与えている。
- 教職大学院にウエイトを置いている点。
- 地域貢献
- 現在の教育課題への対応についてすばらしい見解を持たれた教授，准教授，助教等の先生方がたくさんおいでるすばらしい大学です。どうかその先生方のもとで，現職の先生方が，人間力，教師力，そして授業力を大きく向上させてほしいと願っています。（特に大学院）
- 学生に対して親身になって指導してくれていると思う。また教員採用率が高いのは学長以下，教職員の努力の賜物だと感心している。
- 実践的指導力を身に付けさせようと努力されている。

- 学校現場にボランティアやインターンシップの形で入ることをすすめている。
- 鳴教大への入学者の定員が少ないと聞いている。
- 能力の高い学生 1 人 1 人に対して手厚く指導されている。
- 採用前の採用審査に向けての指導は秀逸であると思う。
- 学生に対し教員が多くいる，少人数制の大学である。
- 鳴門市の保・幼・小・中学校とつながりがあり互いの教育力を活用したり連携しているところ。
- ふれあい実習等を経験し，鳴門の幼稚園で子どもたちと触れ合っているのので，スムーズに保育に入ることができる。
- 教職大学院で学校現場に応じた実践的な研究が進められている。
- 徳島県の実態に対応できる指導力が育成されている。
- 大学，大学院での指導者に豊かな経験者が多い。
- サポーターやインターンの制度はとてもいいと思います。もっと，学生に広く知らせて，活用していただきたい。
- 大学院生が教育実習を行う際，実習担当の教員やゼミの指導教員が実習校に来校していただき，情報交換ができることは，有意義だと思います。
- 学校現場ですぐに教員としてやっていける実践力を身につけていると感じる。とくに，授業力はすぐれていると思う。
学級経営については個人差がある。先日の全国校長会でも学級経営の力をつけさせる研修がいちばんむずかしいという話が出た。鳴門教育大学の卒業生は総じて学級経営も上手であり，先輩からのアドバイスを素直に受け入れ，自分のものにしようとしていたと感じる。
「学びつづける」姿勢を身につけて卒業されているところがすばらしい。
- 地元高校で将来教員を目指す生徒の進学先
- 現職教員のための大学院教育
- 実践的な力をもった卒業生が育っているように思われます。
- 鳴教大で学んだ学生は，教員としての情熱を持っており，子どもとともに学ぼうとする姿勢がみられる。また，授業研究も熱心で，子どもたちに学力を着けたいとの思いも強いものを持っている。
- 教育実践にまじめに取り組む意欲と態度を持ち合わせている。学部や院で，教員をめざししっかりと授業・研究に取り組んでいると思う。さらに経験を積むことでよりよい教師になれる人材が多いと考える。
- 授業技術に優れている。
- 鳴門教育大学からの教員就職率がおおよそ 90%と，全国国立教員養成大学で 1 位という成果はたいへんすばらしいと感じている。貴学の取り組みが学生に十分浸透しているのでしょう。また，研究活動・地域連携での教育支援講師・アドバイザー等派遣事業やその他の研修など，学校と大学が一体となり協力いただけることへもありがたく感じている。
- 有為な人材を輩出し，教育の進展に大きな役割を果たしている。

- 大学・大学院ともに大変充実した指導を行っていただいていると感じています。
- 進んだ教育理論・実践を学ぶことができる。
- 県内の小中高等学校と連携して、学校の課題について一緒に取り組んでくれる。
- 地域との連携
- 教員採用試験の合格者が多く、県内の教職員の確保に大いに貢献できていると思います。
- 本年度、ボランティア実習生を受け入れた。1週間という短い期間ではあったが、子どもたちと積極的に係わり、教員をめざす学生にとってはいい経験になったと思う。子どもたちも学生と一緒に活動することを喜んでいたし、担任にとっても助かる場面があった。もう少し長い期間だといいと思う。
- 小中の学校現場と密接な連携をとっているところ。
- 即戦力になる教職員を送り出してくださっている点は大変ありがたい。
- 現場での実践がある。
- 公開講座を受講する機会があり、とても有意義でした。
- 教育者としての実践力および専門性を伸ばすことに力を入れているところ。
- 地元に残る有能な教員を育成している。
- 県市教育委員会や小中学校等と連携・協力した教育活動がよく行われている。
- 県・市町村教育委員会との連携の元、教員の育成、資質向上にお取り組みいただいている点。
- 授業力の向上や知識、技能、また、現場での実習等についてしっかり取り組まれている。
- 教育大学・大学院が身近にあるのは、現場の学校としては、様々な協力を得る機会も多くなるということで常々感謝しています。たまたま、本校に関わりのある初任者やインターンシップ教育実習生が優秀であっただけかもしれませんが、前問で「現状の教育レベルでよい」と答えさせていただいた能力を身につけていると感じました。また、これからの教員に積極的に身につけてもらいたいスキルとして「伸ばしてほしい」にチェックさせていただきました。たぶん、これからの教育課題の解決に向けては、大学等で教育を専門的に学んだ者のスキルが絶対に必要になりますので、どうぞよろしく願いいたします。
- 時流にのった教育課題や技法を学べる。
- 学校現場へのボランティア等の協力。
- 急激に変化する先行き不透明な社会の中で、たくましく生き抜く力を育てるために様々な施策等が矢継ぎ早に打ち出され、漫然と教育の営みを続けてきた感のある学校現場、今、そのことが厳しく問われ課題が山積している。
この様な中、教員養成大学として、多方面からの意見・要望等を求め、その使命を果たそうとしている姿勢に共感を覚える。今後も教育現場と密接な連携を保ちつつ、互いに「頼れる関係」を構築していただきたい。
- 大学院生（現職教員）が学んできた内容を学校現場に行かすことができている。
- 現場で生きる内容を学生や大学院生が学んでいるところ。

- さらに専門性を深めることができている。
- 落ち着いた教育環境
- 教員採用試験への対応
- 学部卒業生については，“愛情”から教育が始まるという基本的認識が身についているように感じます。しかし，大学院となるとルーツが多様なのでやむを得ないとも思いますが，“愛情”に欠ける者も居り，資質を疑いたくなる者もおります。他大学から来た院生をどう指導するかが課題かも知れませんが，念のため。
- 専門的な視点から現場の教員を指導していただいている。
- 地域の学校と連携できている点。
- 地域や学校現場に密着した教員養成をしようと努力していることを感じる。
- 教員として一定の資質を備えた教員養成ができている。鳴教大出身の教員はまじめな方が多い。
- 教員養成について，その専門性の教科について積極的に取り組まれ，率先力となる人材の養成に尽力されている。
- 実践的な経験をたくさん積まれている。
- 大学院は，現場での自らの課題を探究しようとする明確な目的意識と意欲を持って学べる。
- 教員採用審査への対策について，実践的な指導をしているところ。また，教育現場での実践に役立つ，学習指導や生徒指導等について実践的な指導しているところ。小中高等の学校現場での経験がある先生の指導が有効なような気がする。
- 就職率が高い。就職対応が素晴らしいんであろうと思う。採用が遅くなるとどうしても徳島県以外への就職を考えるようになる。他県からの進学者に徳島県で就職するように強要することは考えていないが，徳島県内の進学者については，徳島県の教育の将来を担う人材として育ててほしい。
- 教職大学院については，県内教員のスキルアップにつながっており，ありがたい取組と考えている。特に高校現場での研究テーマについて奨励していただいております，研究成果がそのまま学校現場で役に立つことを期待している。
- 少人数教育を展開しているところ。豊かな識見を持った教授陣がいること。
- しっかりとしたテーマをもとに，実践的な教育を学ぶ場であること。
- 幅広い教養を身につけている。専門職としての力をつけることに，意欲があり，研究熱心である。
- 学校ボランティアの制度

Q10：要望や改善点

- 現代日本においては，教師が円滑な教育活動を実践していくには，非常にやり難い環境下にあると言えます。非常識で自己主張の強い保護者，規範意識の欠落した児童・生徒，教育に無理解で非協力的な地域住民，嫌な業務に対しては常に逃げ回る

同僚教師、等々が散見されるとあって、自らの使命を忘れずにしなやかでさわやかに、凜とした姿勢を貫きながら教育に情熱を注ぎ続けられる「教育者」を是非「輩出」していただきたいと願っています。

- しばらく前に接した学部卒業生である教員の方は、まじめではあるものの、人間関係の結び方、トラブルの対応力などに、課題を感じたことがあった。教育実習生として接した時には、社会生活面の課題も感じた。大学教育の中に含むべきかどうか、疑問もあるが、倫理観、教職に求められる人間性なども学部生には、しっかり考える場が必要だと思う。
- 優秀だが精神的に弱い人も中にはいる。強いストレスにさらされる職場であるため、コミュニケーション能力とともに伸ばしていただきたい。
- 大学や院についてはよく知らないため話はできない。
- 児童理解（共感力）、人権教育 仲間づくり、遊び、きめ細やかな生徒指導。
- 大学院修了後、数年の現場経験を経て、戦力となっていくことが順当なことではあるが、大学3年から教科、教科外の専門性をより高めてはどうかと感じている。また、大学院修了生には、地域のリーダーとして、もっと積極的な研究披露・発表の機会が開かれ、現場において重要なポジションの仕事が与えられるよう教育現場に広報してはどうだろう。
- 研修、研究内容を勇気を持って、実際の教育現場で生かそうと努力することができるかが大きな課題であると思う。
- 我が国の教育行政の今後について、学校現場の教職員、児童生徒をよりお知りになっている立場から中教審等への積極的かつ、組織的研究成果を提供するなどし、今後の教員の在り方を現場の教員にとってより分かり易いものとするよう行政をリードしていただきたい。その上で、『鳴門教育大学が目指す教員』養成を骨太に進めていただければ、ありがたいと存じます。
- 学部生については幅広く豊かな教養、社会の出来事についての知見を持った教員を養成していただきたいと思います。新聞や本を読まない学生が増えていると聞きますが、読まない教師が読む子供を育てられるとは思えません。
大学院生については、学校のみドルリーダーになってくれることを期待しています。そのために学校全体を考えられる広い視野、他の教員との協調性や指導力を身に付けて現場に帰ってきてほしいと願っています。
- とくにありませんが、徳島県にある唯一の国立教育大として、県内の教育レベルをUPするためのリーダー的存在でありつづけて欲しいと考えます。
- 一番の問題点は附属学校がはなれた場所にあるということである。実習という教員になる上で身を持って学習できる場が身近にないというのは大きなハンディではなからうか。
- 今後徳島の教育現場は急速に若返りが進んでいくが、その中核の教員養成機関として即戦力となりうる教員を数多く送り出してほしいものである。
- 要望などではありませんが、県外からの進学者が多いと聞きます。徳島県のために良い教師人材を育てていただくよう県内からの志望者を多く入学させていただきた

く思います。また、卒業をしても正規採用がむずかしい校種、教科もあると思われる。せつかく、教師をめざして入学希望した以上、採用試験に受かり、夢を少しでも早くはたせるようなシステムや授業で採用試験に向けた時間を設けるなど良い人材が、他の職業に流れていかないようにお願いしたいと思います。

- 一部のほんのわずかな方ですが、エリート意識というか鳴教愛が強すぎる感じがすることがあります。同世代の方と並んだときに感じたことがありました。能力的には、何の問題もないと思います。
- 免許状の更新に大学を訪れた折りに、他の大学に比べて、職員の方も多忙かも知れませんが、外部の対応にやや問題があるというような声が聞かれました。
- 地域に応じた教育（地域によって様々な環境、人員配置、教育実践等々）があり、それについてしっかり学生に理解させ、幅広い仕事のできる人材を育ててほしい。
- 特別支援教育について、もう少し専門的な知識・理解が身に付けられるとよいと思う。
- 今後、学校の代表（中心）となり得る人材の育成を希望したい。
- 学生の派遣を県西部、南部に広げてほしい。（教育実習、体験）
- 地元公立学校との連携
- できている人とそうではない人の格差が大きいので、社会性、マナー、常識、責任感等、大人として必要な知識や分別を（足りない方は）ぜひ、身につけてほしいです。
- 今後ますます教育界はきびしいと予想されます。強い精神力が必要であることや上手なストレスの解消法、協働の大切さなどをご指導ください。また、優秀な方ばかりだと思いますが、現場に必要なものは素直さや謙虚さ、周囲に助けてもらえる受援力であることもお伝えいただきたいと思います。
- 様々なことをあらゆる機会を通じて広報してほしい。
- 大学院に行くのは、自己の資質を高めに行っているのか疑問である。全員ではないが、現場に帰っても何も変わっていないような気がする。
- 単科大学であるために視野が狭くならないような取組をどんどん取り入れていくことが必要だと思います。

現代は、生徒や保護者、地域の方を含め社会全体の価値観が多様化し、学校教育に対する期待（要望）も様々です。そんな現代社会で学校教育がより良い方向に向かうために、先生を目指す学生さんには、自分と考え方や生活習慣の違う人を受け入れともに前進しようとする度量の大きさを身につけてほしいと思います。そういう意味でいろんな業種の企業人や留学生との交流他大学との単位互換をもっとすすめても良いのではないかと思います。

- 6～7年前に離職してしまった人があり、精神的に強い人、責任感のある人を育ててほしいです。
- 教員の資質向上は常に求められており、今後も貴大学の果たす役割は大きく、活躍を期待している。
- 数学科教育コースの入試科目について、センター試験で数Ⅱが必要なく、個別試験で数Ⅱ、Ⅲ、Ⅳが必要ない理由が知りたい。このままで高校の数学の教員になるのだろうか。

- 実践や体験的な学習をしていただき、それを現職の院生とともに協議し、現場に生かせる教育にさせていただいたらありがたいと思います。
- 現職も様々な学ぶ機会を作ってくださいたら嬉しいと思います。(今もセミナーとかのご案内をいただいています)
- 大学院での研究が現場の実態に役立つよう望みます。研究のための研究でなく、日々の実践にプラスになるもの活躍できるものの指導をよろしく願いいたします。
- 今後、小・中学校と同様に高校・特別支援学校でも学校のリーダー・管理職をめざす人たちが増えてくれることを願います。
- 大学の先生の顔が見えにくいです。
- 現職教員を派遣しても、現場復帰にすぐ役立つ実践可能な研究を期待します。
- 教職大学院：ミドルリーダー等として、現場で指導性を発揮できるようにしてほしい。例えば、研修のあり方を根本から見直し、体制を構築しなおすなど、行動にうつせるスキルを身につけてほしい。
- 基本的な生活習慣（特にあいさつ）が、身につけていない人がたまにいる。教員として、児童・生徒に範を示せる人材を育成して欲しい。
- 文章力のない教員も実際に存在する。通知表に所見を書いたり、学級だよりを発行したりする際に、訂正の付箋だらけになる教員も多い。大学では、現場で即戦力となる人材を育成して欲しい。
- 様々な活動に於いて学校へ直接電話や来訪の際言葉遣いが余りにも不適切な場合が多々あります。学生だから仕方ないとも思えますが、そのまま社会へ出た時、教育現場のみならず企業でも（というより企業だからこそ）困りそうです。同僚、保護者、クライアント対応で問題を大きくしかねないように感じます。一部の学生なのかもしれませんが。
- 指導が難しい生徒や対応が難しい保護者に対して愛情を持って粘り強くがんばれる教師となっていける力を育成してほしい。
- 現場では、保護者への対応、子どもの管理が難しくなっている。どんな学級でも、課題をもつ子どもたちがいるので、それらの課題に対応でき、保護者と連携しながら子どもたちの教育に取り組んでいくことができる教員を育ててほしいと思います。
- 「総合力の高い」卒業生が多い反面、こじんまりとまとまったタイプの卒業生が多いような感想を持つ。「自分のシマ」しか守ろうとしないタイプが多く、将来の管理職候補が少ない印象を持つ。
- 多少型破りでも生徒が人間的な魅力を感じる学生を育てて欲しい。「良き教員」と「良き先生」はちがうと思う。
- 学校との連携はどうしても鳴門・板野・徳島が中心になってしまうと思いますが、他都市との連携も今まで以上に、どうぞ宜敷くお願いいたします。
- 申し分けありません。十分理解できていません。今後とも徳島県の教育の充実のための優秀な人材の育成をよろしく願います。
- 実習生を受け入れていちばん残念に思うのは授業力です。もちろん授業は回数を重

ねることによって、上手になっていくものですが、事前にあまり模擬授業なども実施されないまま実習に臨んでいる学生さんもいたように思います。(数年前の話です)人前(子どもたちの前)でどれくらいの大ささどれくらいのテンポで話せばいいかなど模擬授業の回数をふやしてほしいです。

- 私も OB (徳大教育学部 S57 卒 4 中体出身) としてさらに多くの教員を育成されその方々が活躍されることを祈っております。
- 様々なタイプの学生がいると思いますが、教員養成校として恥ずかしくない人物を現場へ送り出してほしい。
- 組織(チーム)で対応していくものが、学校である。だからこそ先輩教師の話聞き、リスペクトしていく素直な構えがもっと欲しい気がする。大学院生の学力に個人差が見られる。
- 実習に小中レベルの学力をしっかり身につけさせてほしい。
- 様々な人材は教育界に必要であるが、これまでの貴学卒業生をみていると評価が大きく分かれる。社会人としての人間力育成がまず必要なのではないかと思う。
- 全国的な教育課題に惑わされることなく地元徳島の実態に学び、それに応じた教育を展開して下さい。
- 人としての大きさを感じられる人材の育成に一層努めていただきたい。
- 学校で中心的役割を担っていただきたいリーダー的存在として活躍していただきたい。
- 新学習指導要領で子どもたちに育成しなければならない資源や能力や指導方法を研究、工夫して学校現場で他の教員の牽引役として頑張ってください。
- 人の価値観が多様となり、今までの対応ではうまくいかないケースが多くなってきた。大学・大学院で、様々な場面を想定したロールプレイ等を実践してほしい。(既に、実践されているかもしれないが。)
- 教材研究などの仕方などを具体的に指導して欲しい。
- 高等学校等の高いレベルの教育をおこなう場合は、不利かも。
- 鳴教大、大学院の教育内容は素晴らしいものと考え、実績も高く評価している。しかしながら、その内容を理解している者は少なく、さらにアピール(実績や研究内容、成果)することが必要だと考える。
- 現職教員に対する研究成果報告会や各分野の教育研究会の開催等を望みたい。
- 学校は、社会に生きる子どもを育てています。知・徳・体のバランスが重要です。特に小学校では、生活・学習指導と学級・学校経営能力が必要です。今後とも「主体的・対話的で深い学び」が学習にも生活にも指導・支援できる教職員を育成して行ってほしいと思います。
- 私の経験から、自主的に行う活動(サークル・クラブ等)から教育の現場に生かせることを、たくさん学んだので、学生が自主的に活躍できる環境を整備してあげて欲しいと思います。
- 鳴教大学院について、各地教委や現職教職員に向けて今以上の PR 活動を行うと良いと思います。
- 学校現場において優れた実践力が発揮できるリーダーの育成に一層努めていただき

たい。

- 教育に情熱を持ち、指導力のある教員の育成を今後もお願いしたい。また、常に前向きな姿勢で諸問題の解決に向けて行動する人材を育てていただきたい。
- カリキュラムを創造できる教職員の育成。
- 学級経営力を高めるベースとしての幅広い人間関係調整力と身につけられるような体験的学び。
- 多様性を認め、柔軟に対応する姿勢を大切にしてほしい。印象として、教員養成学部では融通性が少ない（偏見かもわからないが）人材を育成する傾向があるのでは？
- コミュニケーション能力を高める教育をお願いしたい。
- 教科等の専門領域における知識や教養の修得を強く意識し、実践し続ける姿勢を身につけるような教育を行っていただけたらと思います。
- 鳴教大・大学院からはよく似たアンケートが来ます。忙しい現場の事を考え、統合するなどの配慮が必要ではないでしょうか。
- 相手の立場に立って考えるということが教育の基本です。H19 からアンケートを実施しているということですが、どのように生かしてきたのか明らかにしていただきたい。
- 特別支援教育と心理の携を深めたらいいと思います。
- クラブ活動（体育・文化）
- 歴史学習を重点的に学ばせる。
- 現場（学校）との関わりをより密接にしていくことが必要かと負担感を感じさせない取り組みとして今後、実務家教員の割合を増やしてもらいたい。
- 大学生について
 - ・教育実習を学生の地元でも行える仕組みがあってもよいのではないか。
 - ・教師に向いていない学生への他業種への指導にも取り組んでいただけるとありがたい。

大学院生について

- ・教育技術だけでなく、教師としての心構え等を改めて考えるような資質向上にも幅広く取り組んでいただけるとありがたい。
- 大学・大学院卒業後も、それぞれのキャリア・ステージに対応した資質向上のため方策を検討してほしいと思っています。
- まじめではあるが、魅力に欠ける。教養教育の刷新が必要では。偏差値などで示される学力はあるが、人間や文化についての社会学的な考察など、本質的な勉強をすることが大切。教科の専門性と同様に教養科目も充実させ、総合力の高い人材が輩出されることを望む。
- 学校現場は、インターンシップや教育実習等、積極的に受け入れたいと考えている。
- 論文を書くことができる基礎的な力を育ててくださるようお願いします。
- 教員に向くかどうかの適性を見極めた就職支援をお願いします。
- 学校現場にしては、大学院を修了した教員には、学校の核となり要となり活躍して欲しいところです。しかし、現状としては、厳しいのではないかと考えます。（全てではありません。）管理職と一緒に学校運営、経営に関わっていける人材に育てて欲

しいと考えています。

- 教員の世代交代により、即戦力となる教員養成が求められている。多少の困難があっても、粘り強く対応していく精神力と忍耐力を培っていただきたい。
- 様々なコミュニケーションの方法や討論による伝え合う力（態度も含め）の育成や、他の人に共感する力、寄り添って考える力も必要だと思う。
- 最近、実際に教員として採用されたが、その組織の中で上手く自分を発揮できず、辞めてしまう方を見ている。研究も大切だが、社会制もしっかり身につけられるよう実習の場を多くもって経験することも必要ではないかを感じる。また、何か悩みがあった時に相談できる相手（仲間）を見つけてほしいと思う。（学生同士の交流）
- 二つお願いしたい。
 - ①へき地教育や複式授業の向上を学ぶ授業内容を取り入れていただきたい。へき地校への見学や参観も積極的にお願いしたい。
 - ②別活動の研究・実践を専門的に学ぶカリキュラムや附属小への教員配置をお願いしたい。学力向上やいじめ防止等に大きく特別活動が関わっているので。
- 様々な体験活動を経験させて現場に送って欲しい。
- まじめに取り組んでいる反面、授業に臨んでの基本的な大切なことを握んで、メリハリのある授業や新しいことへの挑戦意欲などにもう少しの人や、小中教員としての明るさ・笑顔で児童生徒に接していける努力に乏しい人がいる。
現場に立っている卒業生から見ると、能力がありながら、性格的なものや意欲の点から、学級担任をすると困惑の度を増したり、精神的に落ち込んでしまう人がいる。児童・生徒と共に遊んだり、活動したりする能力や保護への対応力などの育成にも努めて欲しい。
- 精神的にタフな教員を養成してほしい。生徒指導や教育相談について充実させてほしい。
- 大学の先生が高校の現場に来て、授業実践をして、現場教員が学ぶ研修の場を年に数回、いろいろな領域、分野で実施してほしい。
- 危機感をもって、旧来の体制（体質）の見直しを図る点
- 一般教養、専門的知識に優れた卒業生や修了生は多い。ご熱心な指導の賜物だと思う。「教育は人なり」と言われるが、人としてのあり方、教員としての心がまえ等、基本的な部分の指導を強化してほしい。教育実習（現行は3週間？）も少ないと思う。
- 生徒理解や生徒との人間関係を構築させる技術を身に付けさせてほしい。
- 発達障がい等の対応の仕方を身に付けさせてほしい。
- ICTの活用能力を身に付けさせてほしい。
- 現場に出た時にベテラン教員と対等に力が発揮でき、幼児や保護者に信頼されるようしっかり力をつけてほしい。
- 難しい知識ばかりでなく、幼稚園教員としての技術を身に付けたり豊かな経験を積みませたりしてほしい。
- 優秀な学生もいるが、採用後の様子を見てみると「教えてもらうのが当然」で待っている姿勢が目立つ新採教師がいる。

また、先輩の指導法を見てもまねることがなく、自信（根拠のない）をもっているのが気になる新採教師がいる。

大学の問題というより、今の学生の気質にどう切りこんでいくのかが問われていると感じる。

- 大学で優秀だった学生が現場では力を出せていない。得点がすべてではないことを学生に伝えていただきたい。
- 質の高い教員養成の中核大学として、全国トップの教員就職率が維持できるよう、専門科目・実習科目等の更なる充実を期待しています。
- 配属された学校現場・所属校との定期的な情報交換を行い、卒業生・大学院生への支援体制を更に充実させることが臨まれる。
- 遠隔地においても、大学、大学院の教育を受けられる、サテライン等の情報発信システムを向上してほしい。
- 実践力が身につくような指導をしていただきたい。
- 大学卒業後（結果的に）小・中学校の教員となっている学生が多い。
- 遠隔地にいる教員のためのe-ラーニングプログラムの充実。
- 中・高等学校における英語指導改善に向けた取組。
- 教員になる割合は全国トップと言われるものの、実際に現場で活動を始めると、1年位でアッサリとやめてしまう新採用が以外と多いという話を聞くことがある。受審テクニックも必要とは思いますが、教師をなぜめざすのかという土台をしっかりと鍛えてほしいと思っている。
- 実践的な力にさらに一層幅広い人間的教養を身に付けた教員を養成していただきたい。
- 特に、要望というものではないが、教員として採用されて勤務（担任等）をするが、やはり経験不足ということもあり、生徒指導面や家庭との連携の中で、戸惑うことが多くみられる。しかし、これらの力は、経験を通して培われていくものであると思われるし、学級・学校の中で連携しながら培われていく力だと思っている。
- 教員採用に向けて、数々の様々な手法で学生を育成していると思われるが、実際に現場に入った時に、社会人としての経験が少ないがゆえに一旦常識に欠ける面もあるので、そういった面でもしっかりと研修を進めて欲しい。
- 幅広い教養を持たせてほしい。
- 大学入試選考において意欲ある学生を入学させてほしい。学力の重要性は十分理解できるが、人間性の重視をお願いしたい。
- 生徒として真面目に努力を積み重ねてきた学生や現職教員が多いため、学習が遅れがちな生徒に対する想像力をはたらかせることが難しい人がある。学校でも指導・助言に努めており、大学でも十分されているとは思っていますが、そうした視点での教科指導、学級経営等の指導を更にお願したい。
- 教員としてよりも、社会人や大人としてのマナー等もしっかり指導して欲しい。
- 各校で行っている教員研修（授業力向上や授業マネジメント）の講師として、さらに関わって欲しい。
- 管理職をめざす教員をもっと育成すべきである。

- 教員採用試験の合格率を上げることの大切ですが、多様な人たちとのコミュニケーション力や総合的な人間力の育成にも力を入れてほしいと思います。また、現場は年々厳しい状況になっているので、特に我慢する力や忍耐力、課題解決能力、柔軟に物事に対応できる力等が重要だと思います。また、それらの力は大学の授業だけでなく、大学生活の中で多様な経験をするを今以上に学生さんたちに進言・サポートしていただけるとありがたいです。
- ここ数年、徳島県の小学校教員採用審査において新卒者の合格者が増えている。臨時経験のない初任者にとって、学級経営をはじめ初めてのことばかりだと思う。教育実習だけでなく、学生ボランティアとして学校現場を経験するなどして、もっと学校現場のことを知ってほしいと思う。
- 鳴教大だけの問題ではないが、新聞をあまり読まないなどの理由から、教員の不祥事や病気になる教員が多い等のニュースを知らない学生が多い。そのあたりの現実を理解させてほしい。
- 高校英語で教員採用審査を受審している者から聞いた話だが、貴学出身者が、審査に落ちた後、審査員に直接聞いたところ、他の外語系大学などに比べてやっていることが古いので合格させられないという旨のことを聞いたと言っていた。せっかく英語教員を目指して鳴教大に行っても、なかなか採用審査に受からず長年臨時で苦勞しているというのはいかがなものか。採用審査に受かる教育内容も必要なのではないか。
- 教育公務員としての人間力をさらに育成してほしい。
- 理想とは別に、自分の特性を教員としてどう生かしていくか、といった方向性を自分自身がしっかり認識しておくこと、また、それを修繕していく向上心を持つこと、そういった教員の育成を期待します。
- 人間の強さや行動力、多様な人と出会い、生き方の経験させてほしい。
- 教育課題が多いが、焦点を絞って現場で活用できる力を付けてほしい。
- 学生に対して過保護すぎる感じがする。
- 授業力等の知識や実践力はもちろんであるが、それ以前の根本となる人としての清々しさ、対人関係を構築する姿勢、子どもの手本たり得る人柄、教職という仕事の大切さや意味、人の役に立とうとする意欲等をしっかりと身につけた若者を育てていただきたい。教員としてやっていく「覚悟」と言えるものを身につけて欲しいと思う。
- 新採の教員が多くなってきている。定数等の関係で、即戦力として教壇に立つこととなり、大学と教育現場とのギャップに戸惑いカルチャーショックで、精神的に不安定になる教員がしばしばみられる。教育実習等の現場体験の機会を多く確保する工夫が必要でないか。
- 学校が協力して欲しいことがあっても、大学の敷居が高い場面もある。教職大学院生の所属学校との交流を通じて、深く学校現場と繋がっていくことが、身近な相談しやすい、また頼りやすい教職大学としての地位を確立していくのではないかと感じる。

- 若い教員において、生徒指導能力（保護者対応）とコミュニケーション力をもっと身につけてほしい。特に、様々な場面における保護者対応能力を身につける必要がある。
- 多様性のない環境（様々な人間と交流する機会の少なさ）
教育実習に来る際の心構え（学ぼうとする姿勢 とくに院生）
採用試験に対応することはよいのですが、実際の現場で即戦力となるような指導力や人間力、教育公務員としての意識をさらに高めていただきたいと思います。
- 地域の大学として、「少子高齢化が加速度的に進む地域で、子供をどう教育するか」に自分の問題として取り組める教員を一人でも多く育てて欲しいです。
- 教員としてだけでなく、社会人としてのマナー教育も重視してほしい。
- 学部生が卒業後、早期に学校現場で活躍できるよう、様々な体験を積み重ねていただきたい。
- 今後も大学・大学院の研究の協力を得ながら施策を行っていききたい。
- 学校現場で役立つ（即戦力）力をつけさせて欲しい。特に、子どもや保護者・同僚と協力できる力やコミュニケーション力は、非常に重要だと感じている。
小学校の場合は、スペシャリストというよりは、オールラウンドの力をバランス良くつけて欲しい。知識というより知恵を働かされる教員養成をして欲しいと願っている。
- 実技指導ができる教員の養成をお願いしたい。特別支援学校であれば、発達検査や作業学習などの実践的指導力。
- 知識、技能もさることながら、タフな精神力などメンタル面での指導強化をお願いしたい。
- 今後も、徳島県の教育をリードしていく機関として躍進してほしい。
- 県教委、地教委とタイアップした情報発信や企画を実施し、ブラックな職場の代表と言われるほど多忙な学校現場にも、大学の人や情報が届きやすくして欲しい。
- ①大学の先生の講義はもちろん必要だと思う。ただ、教育現場の現状を熟知したり、学校現場で多少でも指導経験があったりすることが重要だと思う。
②講義の中で、教育現場の批判をすることも時として必要だが、その改善のための方策を実現可能な方策で指導してほしい。単に教育現場の責任だとか、現場の教員に問題があるとかだけでは解決されないし、それでは、そのような講義をする大学の先生の力量に疑問を持つこともある。
- 幅広い経験をさせてほしい。規範意識もしっかりと身につけてほしい。
- パンフレット等を作成し、その成果を広報してくださっているが、HP等でもっと大学院の研究内容を積極的に広報していただきたい。（広報されているにもかかわらず、私が探せないのであればご容赦ください。）
残念ではあるが、校長である私も含め、教員には情報収集能力が高くないものもある。教員のスキルアップは欠かせないと感じているので、特に大学院の研究成果が分かる、また、その成果がどのように学校現場でいかせている、などの情報を知りたい。お忙しいとは思いますが、教職大学院の研究成果についても、BPプロジェクト

のよう見やすいHPにしていなければ、大変ありがたい。

私は高校の校長であるが、たぶん、知的障害・肢体不自由・病弱の教員を養成されていると思う。徳島県の教員確保のため、特別支援教育の面で、視覚・聴覚の教員免許を取得できないものかご検討いただきたい。県教委との連携で教育実習などの課題が克服できたらと考える。

無理な要望で申し訳ありませんが、ご検討いただくと幸いです。

- 進んで「児童生徒」に語れるような様々な体験や経験を積ませてほしい。また、その体験や経験を試みようと学生に思わせる動機付けを与えてほしい。
- 教師としての力はあると思うので、精神的な強さと適応力を身につけてほしい。
- 現職職員の研修の充実